

モノ探しにおける呪術的方法 : “モノ探し行動” についての小考 (4)

その他のタイトル	An approach to the behavior of "looking-for-something" (Part 4) : A study of the use of magic to search for missing objects
著者	佐々木 土師二
雑誌名	関西大学社会学部紀要
巻	51
号	2
ページ	91-108
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00020013

研究ノート

モノ探しにおける呪術的方法 — “モノ探し行動” についての小考 (4) —

佐々木 土師二

An approach to the behavior of “looking-for-something” (Part 4):

A study of the use of magic to search for missing objects

Toshiji SASAKI

Abstract

In order to study the use of magic (*jyujyutsu*, in Japanese) to search for missing objects, 41 types of magical ceremonies were collected from 30 internet-sites. The procedures of these magical ceremonies were analyzed and classified along two dimensions, namely, the use of speaking and the use of instruments. This two-dimensional classification was useful to understand the features of magical ceremonies. Finally, the significance of psychological study of the use of magic is discussed.

Keywords: search for missing object, use of magic, magical ceremony, use of speaking, use of instrument, psychological study of magic use.

抄 録

“モノ探し”のための呪術的方法の利用の状況を把握する目的で、インターネットを検索し、30サイトから41種類の具体的手法を収集した。これらの手法の分析の結果、「言葉を使うか否か」と「道具・用具を使うか否か」という2次元の組み合わせによる分類システムが呪術的手法の特徴を理解するのに有効であることが分かった。そして、日本人の呪術利用やその心理学的分析の意義が考察された。

キーワード：モノ探し、呪術の利用、呪術的手法、言葉の利用、道具・用具の利用、呪術利用の心理学的分析。

I はじめに

われわれは普段の暮らしのなかで「(成功したのは) 運がよかったから」とか「縁があった(知り合えた)」というような“超人的”理由を用いたり、「占い」や「まじない」のような“呪術的”方法に頼ったりすることがある。もちろん、その程度には大きな個人差があると思われるが、われわれの日常的行為が合理的判断にもとづくものでない場合や科学的根拠を見だし難い場合があることの証拠の一つにはなるだろう。

“さがしもの”についても「運よく見つけることができた」という感じを持つことがある

し、世間では「占い」や「まじない」によって成功しようとする試みも流布している。しかも、呪術的方法による“さがしもの”は相当の歴史があるらしい。江戸時代には“失物占（うせものうらない）”が盛んに行われたとして、主婦と生活社（2008）の『秘伝 江戸の占いとおまじない』では、その具体的手法である“うせものうらなひ図”12枚が紹介されている。それは、失くした日にちに依じて失くしたものがどのように移動するかを十二支によって占うものである。また、わだ（1994）は「何千年も前から“呪符（じゅふ）”は不可思議な力をもつと信じられてきた。災難を払い、病気を治し、福録を受け、当面している問題に解決を与え、未来を啓示してくれる。」とその効用を述べたうえで、14ジャンルの目的別に150種類の呪符（＝呪符）を図示しているが（p.266-287）、そのなかに「遺失物がでてくる呪符」の図も掲げている（p.287）。

（注）わだ（1994）は、呪符の形態の異様さを「揺れ続ける線、得体の知れぬ黒い点、漢字の異様な字面、人間性を拒否する幾何学的な文様」と表現し、「受け取り手はそこから不気味な暗示を感じたはずである。」と、その“呪術的効用”を述べている（p.287）。『広辞苑』では“呪符”について「災厄を避ける呪力があるとして身につけるもの。まじないのふだ。護符。」と説明され、「まじない」の一種とされている。

ところで、さきに佐々木（2019b）は“モノ探しにおける具体的行為”について述べているが、その種々の行為を“合理的”問題解決行動の枠組みでとらえ、他方、“モノ探しの具体的行為”の一つの範疇ではありながら、いわば“非科学的”とか“非合理的”と評されることが多い「占い」や「まじない」という行為は視野に入れていなかった。そこで本稿は、この“呪術的”方法がモノ探しにおいて利用されている現況の一端にふれて、“モノ探しにおける具体的行為”を理解するための補足情報にしたいと考える。

（注）本稿で扱う“呪術的”方法を「占い」と「まじない」に限り、「お参り」や「祈祷」などの宗教的行為に及んでいないのは、『精選版 日本国語大事典』による「呪術」についての次の説明を参考にしたためである：

呪術＝超自然的な力を直接の方法でよびおこし、望んでいる現象を起こさせようとする行為。

「まじない」と「うらない」とがある。魔術、魔法。

なお、『日本語大辞典』や『明鏡国語辞典』では“呪術”の項目に「まじない」だけが記され「占い」はない。

Ⅱ “呪術的”方法に関するデータ

1. データ収集の方法

モノ探しの具体的な“手法”のリストを作るために、インターネットで「探し物を見つける方法」（カテゴリーA）、「なくし物を見つける方法 おまじない」（カテゴリーB）、「探し物を見つける方法 占い」（カテゴリーC）という3カテゴリーを検索し、それぞれで具体的な“呪術的手法”について説明している10サイトを選び出した。（インターネットには、「占い」の業者の広告や営業案内も数多く掲載されている。）その際、各カテゴリーで掲載順が早いサイトから選んだが、カテゴリー内およびカテゴリー間で重複しないように注意した。その結果、選び出した30サイトは本稿末尾の参考資料に一括して示し、カテゴリーのAでは①～⑩、Bでは⑪～⑳、Cでは㉑～㉓というサイト番号を付して、本稿の記述で使うことにした。

この検索では、三つのカテゴリーに分けて作業をしたが、カテゴリー内およびカテゴリー間で重複して掲載されているサイトが非常に多く、この3分類の内容に特徴的な差異を見ることはできなかった。これは、重複して掲載するサイトの開設者が、できるだけ検索者の目にふれることを期待したためであろうが、実は呪術のなかでの「占い」と「まじない」の概念的差異が分かりにくいという事情もあるのではないと思われる。

本稿でも「占い」と「まじない」の区別をせず、まとめて「呪術的手法」と表現することにしたい。

（注）さきに「呪術」の項目説明に関して引用している『精選版 日本国語大辞典』は、次のように記している：

うらない(占)=①占うこと。現れたしるしによって、人の運勢、将来の成り行き、ことの吉凶などを定めること。また予言すること。亀卜（かめのうら）、鹿卜（しかうら）、易占（えきせん）、夕占（ゆうけ）、夢占（ゆめうら）、手相、トランプ占いなど、各種ある。②占うことを職業とする人。易者。うらないしゃ。

まじない(呪)=①神仏や神秘的なものの威力を借りて、災いや病気を取り除いたり、他人に災いを与えたりすること。また、その術。禁厭（ぎんよう）。符呪（ふじゆ）。まじないごと。②ごまかすこと。うわべをうまくとりつくりうこと。また、相手のきげんを巧みにとること。まじくない。

他方、高橋洋二・足立恵美・小古瀬恭子（編）『占いとまじない』（別冊太陽.73号.1991年5月、平凡社刊）に見られる対談（荒俣宏・小松一彦,1991）では、次のような発言がある：

〔小松〕 占いとまじないの関係も重要な一つであると思いませんか。占いはあくまでも、未来、過去、あるいは見えない神の世界のを知る事なんですよ。普通の状態では知ることができないことを、なんらかのテクノロジーで、つまり定められた方法によって知る。手続き

を踏めば見える。…… (p.5)

[小松] 占いによって一応過去や未来がこうなっているというのがわかる。いい状態だったらそのままでもいいわけだけど、悪い状態だったら、そのままでは困るわけです。そこでこれをどうやって変えるか、ということが生じる。そのところでまじない、広い意味での呪術が出てくるんですね。…… (p.5)

この『占いとまじない』では、「占い」と「まじない」を区別してさらに記述している部分は、見当たらない。

2. データの概要

「占い」と「まじない」をまとめて「呪術的手法」と呼んで、そのデータの概要を述べておきたい。

(1) 呪術的手法の数と掲出サイト

30サイトに掲出されている呪術的手法の数は、述べ154に及び、平均数は5.1であった。カテゴリー別の延べ数は、Aで50、Bで55、Cで49と大きな差は見られなかった。しかし、サイト別に見るとかなりの差があり、1手法のみ掲げている8サイトから、15手法を掲げている2サイトまでの幅があった。特定手法に特化して述べているサイトもあれば、多くの手法を総花的に紹介・解説しているサイトもあることを示している。

30サイトについて、掲出手法数別に示すと次のとおりである：

掲出手法数	掲出サイト-記号 (A / B / C 別)	(サイト数)
1……	A ②、A ④、A ⑩ / B ⑬ / C ⑫、C ⑮、C ⑲、C ⑳.	(8サイト)
2……	/ B ⑳ /	(1サイト)
3……	A ⑤ / / C ⑲、C ㉑.	(3サイト)
4……	/ B ⑯、B ⑱ / C ㉑.	(3サイト)
5……	A ①、A ⑦、A ⑧ / B ⑮、B ⑰、B ⑱ /	(6サイト)
6……	A ⑨ / / C ㉑.	(2サイト)
7……	/ B ⑪ /	(1サイト)
8……	A ⑥ / /	(1サイト)
9……	[なし]	
10……	/ B ⑭ /	(1サイト)
11……	[なし]	
12……	/ B ⑫ /	(1サイト)
13……	[なし]	
14……	/ / C ㉒.	(1サイト)
15……	A ③ / / C ㉓.	(2サイト)

また、平均値で2分割してカテゴリー間比較をすると、3カテゴリーいずれも、平均値以下(5以下)が7サイト、平均値以上(6以上)が3サイトと、不均衡はなかった。(3カテゴリー合わせると、平均値以下が21サイト、以上が9サイトになる。)掲出手法数のカ

テゴリー別平均値は、A=5.0、B=5.5、C=4.9で、F検定で有意差はなかった。

(2) 呪術的手法の名称と掲出サイト数

延べ数154に及ぶ呪術的手法は、41種類にまとめられた。その名称を50音順に配列し、それぞれの掲出サイトの数とサイト記号を表したのが、表1である。

表1 インターネット30サイトに掲出されている“モノ探し”の呪術的手法
(注) 手法を50音順に配列し、() 内に掲出サイト数 (ゴシック体) : 掲出サイト記号を示す。

あ	赤い糸 (1 : C 22) / 赤いひも (4 : A 3、A 6、A 9、B 11) / あとみよそわか (4 : A 3、B 12、B 18、C 30) / あるあるの神様 (1 : C 22) / アルカナ [古いアプリ] (1 : B 15) / アルミホイール (1 : C 22) / アントニオ [聖人] (1 : B 19) / 渦巻き (1 : C 22) / ウリエル [大天使] (1 : C 22) / 大神様 [おおがみさま] ⇒ [だいじんさま] / 大掃除の神様 (1 : C 22) / 音羽の滝 ⇒ 清水の音羽の滝。
か	北の神様 (2 : A 1、C 21) / 清水の音羽の滝 (11 : A 3、A 6、A 7、A 8、B 12、B 14、B 15、B 16、B 17、B 19、C 23) / 口笛を吹く (1 : C 22) / こっくりさん (1 : B 19) / コロボックル (2 : A 3、B 18)。
さ	逆さ言葉 (7 : A 3、A 9、B 11、B 12、B 14、B 15、C 30) / 3回叩く (2 : B 12、C 30) / 3回回って (1 : C 22) / 塩水 [コップ1杯] (1 : C 22) / 舌を出しながら (1 : C 22) / 定規 ⇒ ものさし・定規 / スピラル [ゲームソフト] (1 : A 8)。
た	大神様 [だいじんさま] (1 : A 1) / ダウジング (6 : A 4、A 5、A 7、B 17、C 24、C 27) / 叩く ⇒ 3回叩く / たぬきがこけた (4 : B 13、B 14、C 24、C 30) / タロットカード (1 : C 25) / チャミュエル [大天使] (1 : C 22) / トイレの神様 (1 : A 1) / 時よ戻れ (2 : B 12、C 30)。
な	ないないの神様 (6 : A 3、A 6、B 11、B 12、B 14、C 30) / 名前を呼ぶ (6 : A 3、A 6、A 7、A 9、B 11、C 22) / ニンニク (16 : A 1、A 3、A 6、A 7、B 12、B 14、B 15、B 16、B 17、B 18、B 20、C 21、C 23、C 24、C 27、C 30)。
は	ハサミ (22 : A 1、A 2、A 3、A 5、A 6、A 7、A 8、A 9、A 10、B 11、B 12、B 14、B 15、B 16、B 17、B 19、B 20、C 21、C 22、C 23、C 27、C 30) / 引き寄せの法則 (2 : A 8、B 14) / 左回り (1 : A 3) / ふんじんさま (5 : A 3、B 12、B 18、C 27、C 30) / ペンデュラム (1 : C 30)。
ま	魔法陣を描く (1 : A 8) / ものさし・定規 (7 : A 3、A 5、B 14、B 18、C 27、C 30)。
や	やかん (9 : A 3、A 6、A 9、B 11、B 12、B 14、B 17、C 21、C 30) / 夢占い (4 : C 26、C 27、C 28、C 30) / [ヨーロッパの] 妖精 (9 : A 3、A 6、A 9、B 11、B 12、B 14、B 16、C 22、C 30)。
ら	ロケス、ピラトスら5人の妖精 ⇒ [ヨーロッパの] 妖精

1サイトだけに掲出されている21手法がある一方で、22サイトという多数が掲出している手法「ハサミ」もある。いわば「注目度の高い」手法として掲出サイト数「10以上」のものを取り出せば、22サイトの「ハサミ」を筆頭に、16サイトの「ニンニク」、11サイトの「清水の音羽の滝」などがあり、さらに広げて「4サイト以上」の手法を見ると、9サイトの「やかん」「(ヨーロッパの) 妖精」、7サイト「逆さ言葉」「ものさし・定規」、6サイトの「ダウジング」「ないないの神様」「名前を呼ぶ」、5サイトの「ふんじんさま」、4サイトの「赤いひも」「あとみよそわか」「たぬきがこけた」「夢占い」など、12手法が加わる。

Ⅲ 呪術的手法の分析

1. 呪術的手法の具体的所作

掲出サイト数が多い(4以上の)15種類の呪術的手法の具体的所作を見たのが表2である。

表2 サイト掲出数4以上のモノ探しの呪術的手法の具体的所作

<p><u>ハサミ</u> (22サイト)……ハサミを用意する。ハサミを耳元へ持って行き、チョキチョキしながら「はさみさん、はさみさん。私がなくした〇〇(探しモノの名前)はどこにありますか?」「はさみさん、はさみさん。私さがしている〇〇はどこにありますか?教えてください。」などと唱えながら探す。 [別バージョン] (1)ハサミを持ち、目線よりも上にあげて、刃先も上に向ける。そして「〇〇をなくしてしまいました。早く見つかりますように。」と願います。(2)ハサミを壁などに立て掛け、倒れないようにし、そのハサミに向かって「はさみ様、はさみ様。〇〇を探してください。」と願います。これで見つからないようなら、立て掛けるハサミの数を増やす。(3)天井からハサミをぶら下げて、同様のお願いをします。(4)ハサミの刃に糸を巻きつけつつ、なくしたものを頭の中に浮かべながら探す。</p> <p><u>ニンニク</u> (16サイト)……探しモノを頭の中に浮かべて「ニンニク、ニンニク」と唱えながら探す。⇒モノがなくなるのは「悪い魔女が隠してしまっているから」。その魔女が大嫌いなのがニンニク。ニンニクがあると分かるだけで魔女は退散してしまうので、探しモノがありそうな場所で「ニンニク」を唱える。</p> <p><u>清水の音羽の滝</u> (11サイト)……探しモノのイメージをしっかりと思い浮かべ、それが実際に見つかった瞬間もイメージして「清水の音羽の滝に願掛けて、失せたる〇〇のなきにしもあらず」を3回唱えながら探す。</p> <p><u>やかん</u> (9サイト)……ヤカンを紐でぐるぐる巻きに縛り、探しモノを思い出しながら「〇〇が見つかるまで外してあげない!」と言い、すぐに探し始める。探しモノが見つければ紐をきちんと外し「やかんさん、どうもありがとう」と丁寧にお礼を言う。</p> <p><u>(ヨーロッパの)妖精</u> (9サイト)……探しモノの手助けをしてくれるという心優しい5人のヨーロッパの妖精「ロケス、ピラトス、ゾトアス、トリタス、クリサタニトス」の名前を3回繰り返して言い続けながら探す。見つければ「ありがとう」と感謝の気持ちを表す。</p> <p><u>逆さ言葉</u> (7サイト)……探しモノの名前を逆順に唱えて探す(例:車の鍵→ギカノマルク)</p> <p><u>ものさし・定規</u> (7サイト)……長めのモノサシや定規をタンスの上など高い場所において探す。⇒高い所から全体を見渡し、モノを指すことができるから。神棚や仏壇におくやり方もある。</p> <p><u>ダウジング dowsing</u> (6サイト)……「振り子占い」とも言われる。紙に描かれた丸い円の中心から上下左右あるいは放射状に“答え”が位置づけられた図形(チャート)を用意し、その中央に振り子を垂らす。振り子は先端の尖った金属がいいが、5円玉や50円玉の穴の空いた部分に糸を通して作る簡便法もある。そして、質問に対する振り子の動き方で“答え”を見出す。</p> <p><u>ないないの神様</u> (6サイト)……家から一番近い神社の方角に向かって手を合わせ「ないないの神様、探しモノはどこにありますか?」とお祈りをする。願いがかなった時には、それを報告して願いを解いてもらう。</p> <p><u>名前を呼ぶ</u> (6サイト)……探しモノの名前を呼び「〇〇、早く出てきて!」と言い続けながら探す。</p> <p><u>ふんじんさま</u> (5サイト)……台所に盛り塩をして「ふんじんさま! 〇〇はどこにありますか?」と大声で叫び、探しに行く。</p> <p><u>赤いひも</u> (4サイト)……赤いひもを用意して、結び目を7つ作る。そのひもを部屋の真ん中に吊るしておく。</p> <p><u>あともよそわか</u> (4サイト)……「あともよそわか」と唱えながら探す。</p> <p><u>たぬきがこけた</u> (4サイト)……「たぬきがこけた」と唱えながら探す。</p> <p><u>夢占い</u> (4サイト)……探しモノの夢はいろいろで、その内容にそれぞれ意味がある。</p>

このような所作がとられる理由はほとんど説明されていない。一般的に「占い」や「まじない」では、問題解決（この場合は「モノ探し」に成功すること。）との因果関係が明らかでないので、荒唐無稽とを感じるものや合理的理解が不可能なものが多い。だからこそ「呪術的」ということになるが、それが「超自然的存在や神秘的力に働きかけて種々の目的を達成しようとする意図的行為」（“呪術”についての『広辞苑』の説明の一部。）であると言われれば、日常的理解の範囲を越えたものと思うよりほかに“手”はない。要するに。呪文、お祈り、お願い、呼びかけ、問いかけ、つぶやき等々の言葉を駆使したり、独特の道具を用いたりして、問題解決に努めているということであろう。

2. 呪術的手法の分類

(1) すでに行われている2分類

取り上げた30サイトの中で、こうした呪術的手法を分類しているのは1サイト（A③）だけであった。このサイトは15手法を掲出しているが、それらはすべて「おまじない」とされ、「呪文を唱えるか、呪文を唱えないか」という点から分類されている。それぞれに属する手法は、次の通りである（表記は原文通り）：

呪文唱える系……はさみさん、やかん、北の神、あとみよそわか、ふんじんさま、にんにく、コロボックル、ないないの神様、清水の音羽、ロケス・ピラトス・ゾトアス・トリタス・クリサタニトス、逆さ言葉。（以上11手法）

呪文唱えない系……ものさし、赤いひも、左回り、名前を呼ぶ。（以上4手法）

（注）これら15手法のうちで具体的所作を示した表2に含まれていないのは（掲出サイト数が3以下なのは）「北の神（北の神様）」「コロボックル」「左回り」の3手法で、A③ではそれぞれの具体的所作が次のように説明されている：

北の神……北の方角を向いて、片方の手だけで拝む格好をしながら、「北の神さん、北の神さん ○○を見つけてください。見つかりましたら両手を合わせてお礼をさせていただきます。」と言って探す。

コロボックル……「コロボックル コロボックル、私の○○を返しなさい」と唱える。見つからないのはコロボックル（=小人）の悪戯だから。

左回り……探す時は左回り（時計の逆周り）に探すといふ。

この分類は「呪文」の有無を根拠にしているというが、問いかけ、宣言、お願い、呼びかけ、つぶやき、などいわゆる「神秘的な文句」ではない日常的な言語使用も含まれており、要するに「言葉を発するか（使うか）、否か」ということに依拠している。

(2) 2次元的分類の試み

また、A③の2分類の各カテゴリーには「道具や用具を使うもの」と「道具や用具を使わないもの」が混在している。「はさみさん」「やかん」「ものさし」「赤いひも」などではなんらかの道具・用具が使用されるが、この点は、具体的所作として見逃せない特徴である。

そこで、これらの呪術的手法の特徴をとらえるために「言葉を発するか（使うか）、否か」と「道具・用具を使うか、否か」という二つの側面に注目することができよう。この視点から、表2に掲げた15手法を分類してみると、次のようになる：

1. 「言葉を使う」×「道具・用具を使う」……ハサミ、やかん、ダウジング、ふんじんさま。
2. 「言葉を使う」×「道具・用具を使わない」……ニンニク、清水の音羽の滝、(ヨーロッパの)妖精、逆さ言葉、ないないの神様、名前を呼ぶ、あとみよそわか、たぬきがこけた。
3. 「言葉を使わない」×「道具・用具を使う」……ものさし・定規、赤いひも。
4. 「言葉を使わない」×「道具・用具を使わない」……夢占い。

この結果をみると、「言葉を使うか、使わないか」×「道具・用具を使うか、使わないか」という2次元分類法は有効であるように思われる。

そこで、この2次元分類による2×2分割表で全41手法を分類したのが、表3である。

表3 2次元(2×2分割)でとらえる所作による呪術的手法の分類

(注) 掲出サイト数を()内に示し、その4以上の手法をゴシック体で表わす。

		道具・用具	
		使う	使わない
言葉	使う	ハサミ(22)/やかん(9)/ダウジング(6)/ふんじんさま(5)/アルミホイル(1)/渦巻き(1)* ¹ /大掃除の神様(1)/こっくりさん(1)/トイレの神様(1)* ² /ペンデュラム(1)* ³ /魔法陣を描く(1)	ニンニク(16)/清水の音羽の滝(11)/(ヨーロッパの)妖精(9)/逆さ言葉(7)/ないないの神様(6)/名前を呼ぶ(6)/あとみよそわか(4)/たぬきがこけた(4)/北の神様(2)/コロボックル(2)/時よ戻れ(2)/あるあるの神様(1)/アントニオ(1)/3回回ってから(1)* ⁴ /大神様(1)/チャミエル[大天使](1)
	使わない	ものさし・定規(7)/赤いひも(4)/3回叩く(2)/赤い糸(1)/アルカナ[ソフト](1)/ウリエル[大天使](1)/口笛を吹く(1)* ⁵ /塩水[コップ1杯](1)/スピラル[ゲーム](1)/タロットカード(1)	夢占い(4)/引き寄せの法則(2)/舌を出しながら(1)/左回り(1)

(注) *¹「渦巻き」では「紙に書く」という所作を行う。

*²「トイレの神様」では、トイレの扉の内側の取手にヒモをくくりつけ、便器に向かって合掌して「トイレの神様〇〇がなくなって困っています。探して下さい。」と願います。

*³「ペンデュラム」では、クリスタルをヒモでぶら下げて持ち、「私が探している〇〇はどこ？」と問いかける。

*⁴「3回回ってから」では「探し物が見つかりますように」と言ってから、3回ゆっくり回る。

*⁵「口笛を吹く」では「私の探し物が見つかりますように」と言ってから、口笛を吹きながら探す。

41種類の手法をもれなくこの2×2分割表のなかに収めることができた。

“言葉の使用”については「使う」が27手法、「使わない」が14手法で、ほぼ2対1という大きな差があった。しかし“道具・用具の使用”については「使う」が21手法、「使わない」が20手法で、ほぼ同数であった。

さらに2×2分割でみると、「道具・用具を使う」手法のなかで「言葉を使う」（11手法）と「言葉を使わない」（10手法）がほぼ同数であるのに対して、「道具・用具を使わない」手法のなかでは「言葉を使う」の数（16手法）が「言葉を使わない」の数（4手法）の4倍もあり、「道具・用具を使わない」場合には「言葉を使う」ことで補っている様子が伺われた。「言葉を使わない」×「道具・用具を使わない」とは黙々と所作することや、“夢占い”のようにただ受動的に理解・解釈することであるが、これらはむしろ稀なケースということになる。

IV 考察

1. 呪術による問題解決

(1) 佐々木の既発表モデルとの関連

“モノ探し”での呪術利用では、どのような呪術的手法を用いるかを決めた後、その手法で定められている呪術的所作を進めて、その所作の結論にしたがって探索行為を実施するという“流れ”で成り立っている。筆者がさきに提示した“モノ探し行動のモデル”（佐々木、2018）や“探索意志決定過程”（佐々木、2019a, b）は、いずれも探し手の“主体的行動”として描かれているものだが、その体系では呪術が“介入”する段階での様相はほとんどとらえられない。ここで関連性がどれほどあるのか考えておきたい。

まず“モノ探し行動のモデル”との間では、筆者が最初に提案したST 2次元空間モデルの基本的構成要素である「探索区域」と「探索時間」の2次元のうちの「探索区域を狭くする」という“戦術”に関連するところがあると言える。なぜなら、呪術的方法の多くは「探している〇〇は“どこに”ありますか」と問いかける所作を含んでいて、“失くしモノがある場所”を知ることが目的にしているからである。また、呪文を唱えたり、探しモノに呼びかけたりする所作には「探索時間を短くする」という“戦術”が潜在的に含まれていると見ることもできるかもしれない。このように呪術的手法の潜在的意図まで推察するならば、モノ探し行動の進行状況を表すSTピラミッド型モデルは呪術的所作の潜在的プロセスに立ち入っていると解釈することは不可能ではないだろう。

また“探索意志決定過程”との関連では、筆者が描いている多段階的過程の中心的な実施部分で呪術的所作が介入してくるので、相当に大きな違いがあるように見える。つまり、筆者は探索意志決定過程を詳細に描けば9段階になるとして、それを、①問題認識⇒②一般的決定⇒③基本的方法の選択⇒④選択肢（探し方）の探索⇒⑤選択肢（探し方）の評価⇒⑥試行⇒⑦試行結果の評価⇒⑧実行⇒⑨終了（達成または中止）、という“流れ”で表わしていた（佐々木、2019a, b）。この“流れ”のなかに“呪術的手法の利用”を位置づけると、①の「モノ探し」が必要な事態が発生したことを認識する」と②の「モノ探し」をするか、しないかを定める」はすべての“モノ探し”で見られることであるが、③～⑦は呪術的方法では“超自然的な力”を利用して成り立つという特徴があり、また、⑧では“超自然的な力による援助や妨害排除”あるいは「示された結果」にもとづき探し手が自力で探索行為をする」という意味合いの“行動系列”が認められる。そして⑨は、どんな“モノ探し”にも生じることである。したがって、“モノ探し”で呪術を利用することには、探索の意志を形成し、その実施形態を絞り込む際の情報行為で、家族・友人や外部メディアなどの“人間的な力”の援助を受けるのではなく、「占い」や「まじない」などを通して神様や聖人などの“超自然的な力”に依存するという特異な“他律性”に、その特徴があると言ったことができるだろう。

(2) “呪術の利用”の相対化と「最後の手段」という認識

“探索意志決定過程”モデルにおける③～⑦の段階で「探索の意志を形成し、その実施形態を絞り込む際の情報行為」として“他律的な呪術の利用”があるということは、それを“実施行為そのもの”とは分離するという考えがあることを意味している。ただ、“他律的な呪術”を利用するにしても、探し手が“主体的に行う探索行為”との関係については、データとして用いたサイトによってニュアンスが異なる説明がある。

まず、両者を並列的にとらえ、呪術と主体的探索行為を等価的に扱っているサイトにA⑤、B⑮、C⑳などがある。これらのうち、サイトA⑤は、なくしたものを見つけるために、①行動を思い返し探すべき場所を推理、②探し物の名前を呼び続け探す、ということとを述べ、3番目の行為として、③「占い・おまじないに頼る」としてハサミ、ものさし・定規、ダウジングなど3手法を紹介している。このシンプルさに対して、C⑳は、主体的な探索行為の10カテゴリーを挙げ、“おまじない”も15手法を紹介するという“念の入れ方”である。

(注) C⑩で挙げられている探索行為は、1. 見つかるようにまずは落ち着く。2. 見つかるように冷静さを取り戻す。3. なくしたものを最後に使ったのはいつか思い出す。4. なくしたものが見つかる場所をリストアップする。5. なくしものをした時は落ち着いて順番に探す。6. 可能性としてあるかも知れない思いついた場所を探す。7. なくしものをした時には他人に聞いてみる。8. なくしものが見つからない時は脳を休める。9. 見つかる可能性がある場所を再度探してみる。10. それでも見つからない時は「断捨離」である。また、“おまじない”の15手法は、ハサミ、天井にハサミ、ハサミにぐるぐる糸、やかん、ニンニク、ものさし、トントンと3回叩く、(ヨーロッパの)妖精、ふんじんさま、ないないの神様、時よ戻れ、逆さ読み、あとみよそわか、ペンデュラム、たぬきがこけた、など多様である。

他方、“まじない”を優先しつつ“心構えとしての探索行為”を述べているのがサイトB⑮であって、「まじないを成功させるコツ」として、1. 心を落ち着かせる、2. 集中する、3. 成功のイメージを強く持つ、を挙げている。

しかし、より多くのサイトは「困った時の神頼み」としての呪術的手法を提示している。ふつう、われわれは、呪術に頼る前にまず自分で探し始め、行き詰まってしまった場合に“呪術”を利用するという経過を辿るだろう。この立場なのがA③、A⑦、B⑳、C㉑、C㉒、C㉓などであるが、これらのサイトの多くは、探索行為について比較的詳しく述べ、それでも見つからない場合の「最後の手段」に“まじない”の利用があると述べている。たとえば、サイトA③は、“探し物・なくしものに対する5つの心構え、探し方”を述べ、“どこを探しても見つからない！ 冷静に浮かべるべき3つの可能性”を示し、さらに“なくしもの・探し物が見つからないときの「最優先のチェック項目4つ」”を述べたのち、“よく物をなくす人必見！ 探し物を見つける「おまじない」”として15手法を紹介している。

(注) サイトA③で述べられている“探し物・なくしものに対する5つの心構え・探し方”は、1. まずは冷静に行動を振り返り、同じ行動をする、2. 目だけでなく、五感をフルに使う、3. 丁寧に拭き掃除をしながら探す、4. イライラしたら休む、5. 何周もする、一周目で見つかるとは限らない、などである。また、“冷静に浮かべるべき3つの可能性”は、1. 子供やネコがやったかも、2. 遠くに転がって行って見えないかも、3. あらゆる可能性があるかも。さらに“最優先のチェック項目4つ”として、1. 全ての服のポケットの中を徹底的に調べる、2. 箱・引き出し・カバンの中を全て出してみる、3. 家族に聞く、特に子供、4. ゴミ箱・三角コーナー・排水溝も勇気を出して！ と、身近なところへの注意を促している。そして「なかなか見つからないと、神様にすがりたくなる」としての“おまじない”の15手法に、ハサミ、やかん、北の神、あとみよそわか、ふんじんさま、ニンニク、コロボックル、ないないの神様、清水の音羽（の滝）、(ヨーロッパの)妖精、逆さ言葉、ものさし、赤いひも、左回り、名前を呼ぶ、などを挙げている。

“モノ探し”での“呪術”の利用は、それを明言しているか否かにかかわらず、「最後の手段」とするというのが一般的な認識ではないかと考えられる。本稿で扱ったサイトには、呪術的手法の紹介だけをしているものが多かったが、それも、このような一般的認識をふまえての情報提供ではなかろうか。

(3) 呪術による問題解決への期待

「当たるも八卦当たらぬも八卦」（「八卦」は占い、易のこと。）は、あまりにも有名な諺である。『故事 ことわざの辞典』（小学館）によれば「占いは当たることもあるし、外れることもある。占いの結果は、吉兆いずれでも気にする必要はないということ。」であるが、一般的に占いに対する期待はそれほど強いものでなく、利用するが頼りにするか否かは別問題だということだろう。

この利用者心理を推測させるデータをNHK「日本人の意識」調査から得ることができる。この世論調査は1973年を第1回として5年ごとに同じ質問、同じ方法で全国の16歳以上の国民5,400人を対象に個人面接法で行われ、2018年には10回目になるが、その大量のデータの中から1978年以降の10年間隔の5回分で本稿に関連する部分を取り出したのが表4に掲げた“宗教的行動（第27問）”と“信仰・信心（第28問）”についての調査結果（抜粋）である。（ちなみに、有効回収率は1978年（第2回）の78.5%から2018年（第10回）の50.9%まで下降傾向を示している。）

表4 NHK「日本人の意識」調査による“宗教的行動”関連のデータ

	1978年	1988年	1998年	2008年	2018年
[第27問] 宗教とか信仰とかに関係すると思われることがらで、あなたが <u>おこなっているもの</u> がありますか。ありましたら、リストの中からいくつでもあげてください。（複数回答%）					
ア. 礼拝・布教……………	16.0	14.9	11.4	12.3	9.7
イ. お祈り……………	15.8	14.2	12.7	12.4	10.6
カ. お守り・おふだ……………	34.4	34.6	30.6	34.9	30.4
キ. おみくじ・占い……………	22.8	20.5	22.7	25.3	24.4
ク. 何もしていない……………	11.7	9.9	11.4	8.7	11.5
[第28問] また、宗教とか信仰とかに関係することがらで、あなたが <u>信じているもの</u> がありますか。（複数回答%）					
ア. 神……………	37.0	36.0	31.5	32.5	30.6
イ. 仏……………	44.8	44.6	38.7	42.2	37.8
カ. お守りやおふだなどの力……………	15.8	14.4	13.7	17.4	15.7
キ. 易や占い……………	8.3	7.0	6.0	6.6	4.6
ク. 何も信じていない……………	23.9	25.8	29.5	23.5	31.8

(注) 第27問の回答項目は略称を書いているが、調査で用いられている表現は次の通りである：

- ア. ふだんから、礼拝、お勤め、修行、布教など宗教的なおこないをしている。
- イ. おりにふれ、お祈りやお勤めをしている。
- カ. お守りやお札など、魔よけや縁起ものを自分のまわりにおいている。
- キ. この1、2年の間に、おみくじを引いたり、易や占いをしてもらったことがある。
- ク. 宗教とか信仰とかに関係していると思われることがらは、何もおこなっていない。

このデータを見ると、40年間にわたって比較的安定した数値を示していることが分かるが、とくに本稿の内容に関連する“カ”と“キ”の各問の回答率には大きな変動は認められない。そして、これらの数値には際立った特徴がある。つまり、「信じている」率に対して「おこなっている」率が2～3倍の高い値を示していることである。これは、“ア”や“イ”とはまったく逆の結果である。すなわち、“お守り・おふだ”や“易・占い”は、その効能や成果を「期待しない」にも関わらず「行っている」という傾向がある。逆に“神”や“仏”は、信心している割には“行為”を伴っていないとも言える。

この「低い期待率⇒高い実行率」は、“占い”や“まじない”が「面白半分」のゲーム感覚で利用される現象に通じ、いわゆる“占いブーム”を招来している原因の一つになっているのだろう。

他方で、“占い”や“まじない”の側にも、こうした利用者心理に乗っているところがあるのではなかろうか。

板橋作美（2004）は「占いはしばしば逆のことを同時に言うが、ひとは当たっていることだけを見る」と述べている（p.85）。そのうえ、一度でも当たることがあると本気になって信じてしまい、当たったことだけが記憶に残り、当らなかった例は忘れられてしまう、という人間心理に触れている（p.85）。

また、荒俣宏（1991）は、占いというものの“仕組み”を指摘して「占いが当たらなくても、それを補う説明が発動できるような枠組みになっている」と述べている（p.9）。それは、たとえば、血液型占いで、人間の“性格”は生まれつきの“気質”が後天的な環境などの形成作用を受けて作られるもので、気質は性格の材料であると言い、その占いが当たっていないという文句が出ると「あなた自身にわかるのは“性格”であって、先天的な“気質”はわからないはずだが、その“気質”を血液型占いは判じているのだ」という“言い逃れ”ができる仕組みがあるというようなことである（板橋，2004. p.86.）。

さらに占いでは、結果だけが告げられ、因果関係は説明されない。たとえば、個人の生年月日や姓名の画数などがその人の運勢に影響する理由は告げられない。

島田裕巳（1991）によれば「的中したという結果をもって、根拠にかえようとしている」ということであり、「占いに興味を持つ人間は、根拠があるから占いを信じているわけではない。それが当たる（ように見える）からこそ、占いに頼ろうとする」（p.147）ということでもある。

要するに、荒俣宏が「(占いは) 結果オーライみたいなのがあって、それはそれですごい世界と言えますね」と言うように（荒俣・小松，1991. p.10）、人びとが頼ろうとす

るのは「すごい世界」であり、疑問を呈したり反論ができない相手であるように見える。

“モノ探し”についての本稿のデータである各サイトには、「占いが当たった」「まじないが効いた」という意見が多数寄せられているが、その反面「当たらなかった」「効かなかった」という経験がどれほどあるのかは知ることができない。これは、上記したように、「もともと本気で頼りにしているのではない」ということも一因であるだろうし、「占いが当たらなくても、それを補う説明が発動できるような枠組み」によって“沈黙”せざるを得ないためかも知れない。あるいは、いわば“最後の手段”として頼った呪術が思わしい結果をもたらしてくれなかったことへの“諦め”によるのかも知れない。

2. 呪術利用の心理学的研究について

(1) 呪術利用者の両面価値的態度

占い利用者の態度が、総じて「信じられないが、行っている」というものであるならば、その特徴を“両面価値的”とすることができる。“両面価値的 (ambivalent)”は「同一の対象への関係において、相反する傾向や態度および感情（ことに愛憎）が同時に存在すること」（平凡社『新版・心理学辞典』1981年刊）と説明されるが、占いの利用は「信じられない」という負の態度と「行っている」という正の行動が不協和的に共存するなかで生まれているのである。

これを一般化した枠組みでとらえると、前者は「信じられる — 信じられない」という次元の負の方向であり、後者は「行う — 行わない」という次元の正の方向である。この2次元の組み合わせから生まれる行為の典型的な4パターンは、次のようになるだろう：

- ① 信じる × 行う……………確信をもって行為する、断固実行する。
- ② 信じる × 行わない……………未練を持ちながら断念する、とりあえず行為しない。
- ③ 信じられない × 行う……………躊躇しつつ行為する、ためしにやってみる。
- ④ 信じられない × 行わない…断固として行為しない、完全拒否する。

ここで、占いの利用者は一般的にパターン③に入るが、もちろん、多数ではないにしてもパターン①に属する人もあるだろう。

この4パターンのなかで、②と③が“両面価値的”であるが、われわれの日常生活では、「怖い物見たさ」的心理が働くことが多々ある。とくに「藁にもすがりたい」という心境にあるときには、少しでも明るい結果が得られることが期待できるなら、負の側面を過小に評価して、行為が選択されることがある。“モノ探し”での“占い・まじないの利用”にも、そうした“追いつめられての”問題解決行動の場合が時にはあるのではなかろうか。

(2) 呪術と科学

占いは因果関係を明らかにしないというのが、それだからこそ“呪術”だと言える。島田（1991）は、占いは、本来、因果関係の認められない事柄の間を恣意的に結びつけようとする試みであるとし、イギリスの人類学者のジェームス・フレイザーが、因果関係の認められない事柄の間に共感的な関係を想定する原始未開人の思考方法を「呪術」と呼び、それを宗教や科学と区別した、と述べている（p.147）。

「科学」は、異なる現象間の因果関係を説明し証拠立て、また、反証も受け入れるものである。そうでない呪術は「非科学的」とされるが、ただ、この時の「科学」は自然科学を意味しており、社会科学や人文科学ではないであろう。しかし、「科学」は、狭義には自然科学を意味しているが、今日では、社会科学や人文科学を加えるのが普通である。行動科学や精神科学と呼ばれる領域があることも広く認められているのではなかろうか。

そこで、心理学研究に従事してきた筆者から見れば、呪術では、採用される手法と生み出される結果との間の因果関係を自然科学的に説明しない、あるいは、説明できないが、心理学の立場から異なる視点でアプローチすることは不可能ではない。島田（1991）は、占いを利用する人は「根拠があるから信じているわけではない。それが当たる（ように見える）からこそ、占いに頼ろうとするのだ。」（p.147）と分析し、占いに頼るのは「自分が決定したわけではないから、心理的な責任を逃れることができる。」だけでなく、「不安を鎮め、自信を与えてくれる。」という心理的效果があると言っている（p.149）。たとえば、こうした言説を実証することは、心理学的に意味のあることである。また、さきに、呪術の利用における両面価値的態度に触れたが、その態度の成立や影響は心理学的課題になるだろう。さらに、現代社会での占いの流行現象を支える人びとの特性や波及プロセスについて分析することは、社会学的テーマになる。

“モノ探し”での呪術の利用についても、その当事者になるか否かは別にして、心理学を含む“行動科学”の視野のなかで“科学的分析”の課題になりうるであろう。

V おわりに

呪術を利用することは人びとの生活上の問題解決法としての有効性には疑問がある。また、“モノ探し”のために呪術に頼るケースも稀であろう。筆者は、現時点では、日本社会における呪術の利用状況や普及度に関する客観的データをほとんど持っていないため、このような基本的事実を推察せざるをえないが、このことは本稿の問題点の一つであること

を認識している。ただ、範囲を“モノ探し”に限定しても、インターネット上では結構賑やかな情報交換がなされている状態を知ることになった。そこで知りえた具体的手法には、かなり多様な形があり、知悉度や関心度を表すであろうサイト掲出数にも幅があり、その成立の由来には理解し難いものが少なくないということも分かった。そして、こうした呪術的手法が使われる状況には“ウセモノ（失せ物）発見のための真剣さ”があるよりも、“ゲーム感覚の軽い娯楽気分”で行われる様子も伺われた。それには、対象物（探しモノ）が何なのか、探し出すべき必要性や緊急性がどれほどなのか、手法そのものの実効性への関心や期待がどの程度なのか、等々の条件が関連すると思われ、これらを“モノ探し行動”分析の一般的枠組のなかで理解する必要があることを知らされた。

このような理解とともに、本稿で知りえた“モノ探し”のための呪術的手法からは“軽くて明るい空気”が感じられた。『広辞苑』は、“呪術”は、善意の意図による白呪術（white magic）と邪悪な意図による黒呪術（black magic）とに分けられると述べているが、この2分法には当てはまらないものが多いようである。他者に向けての呪術ではなくて自分のための呪術であるからか、「当たるも八卦、当たらずも八卦」という軽い気持があるためなのか、陰気でなく陽気に実施しようという気分があるようである。そこには“てるてる坊主”や“招き猫”で希望を叶えようとする単純さや簡便さに通じるセンチメントがあるのかも知れない。

参考資料

文献

- 荒俣宏・小松一彦（1991）世界を読み解く「占い」と「まじない」高橋洋二・足立恵美・小古瀬恭子編『占いとまじない』別冊太陽（平凡社刊）No.73, Spring 1991. pp.4-10.
- 板橋作美（2004）『占いの謎：今も流行るそのわけ』文春文庫412.
- NHK（2018）『第10回「日本人の意識」調査：結果の概要』（インターネット発表による。）
- 佐々木土師二（2018）“モノ探し行動”についての小考：「STピラミッド型モデル」の提案。関西大学社会学部紀要、第50巻第1号（平成30年10月）、75-88.
- 佐々木土師二（2019a）“小さなモノ探し”についての行動論的分析：“モノ探し行動”についての小考(2)。関西大学社会学部紀要、第50巻第2号（平成31年3月）、79-90.
- 佐々木土師二（2019b）モノ探しにおける具体的行為とそのモデル化の試み：“モノ探し行動”についての小考(3)。関西大学社会学部紀要、第51巻第1号（平成31年10月）、31-45.
- 島田裕巳（1991）占いの真偽：現代・占いの社会学。高橋洋二・足立恵美・小古瀬恭子編『占いとまじない』別冊太陽（平凡社刊）No.73, Spring 1991. pp.143-149.
- 主婦と生活社編（2008）なくしたものを探すなら失物占。『秘伝 江戸の占いとおまじない：永代大雑書 萬歴大成抄』 pp.20-22.

わだ へいさく（1994） 図説「呪術」ガイド：望みをかなえる 呪符・印法・呪言. 『呪術：禁断の秘法』別冊歴史読本 特別増刊（新人物往来社刊）第19巻26号. pp.256-287.

インターネット

カテゴリーA. 探し物を見つける方法 ①～⑩

- ① 探し物が見つからない！ 無くした物を見つけるためのまとめ。ハサミとニンニク、おまじない!?
<https://newsba-nk.com/sagasimono>
- ② SMAP 中居が発明！ 100% 探し物が見つかる呪文「ハサミさん」が話題！
<https://matome.naver.jp/odai/213822353960936260/>
- ③ ほぼ100% 探し物が見つかる最強マニュアル！ 見つける方法・コツからおまじないまで大公開
<https://maiuma.com/perfect-guide-to-finding-lost-objects/>
- ④ 占いではないダウジング？ なくしたものの見つける方法ダウジングのやり方
<https://cyuncore.com/fortune/2611>
- ⑤ なくした物(探し物)を見つける方法！ おまじない / はさみ / 名前を言う…絶対見つかる!? 指輪・書類・鍵
<https://towa-jyoshi.com/nakushitamono-mitsukeru-houhou-yubiwa-kagi-shorui-kanouseki-zettai-mitsukaru/>
- ⑥ 探し物が見つかるおまじない10選！ あなたの探し物が見つかるかも？
<https://belcy.jp/36663>
- ⑦ 探し物を見つけるための方法3つとおまじない4つ。薬にすがってもアレを見つけたい。
<https://oto92.com/looking-things>
- ⑧ (本当に見つかりました) 失くしたソフトゲームを見つける方法・おまじない・法則
<https://gamestart.hateblo.jp/entry/20170425/1493056342>
- ⑨ 探し物の見つけ方を教えて下さい。あるゲームソフトが姿を消…
<https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question-detail/q1038972680>
- ⑩ 探し物が絶対見つかるはさみさんおまじないのやり方
<https://fortuna-fortune.com/lifestyle/467>

カテゴリーB. なくし物を見つける方法 おまじない ⑪～⑳

- ⑪ 探し物がみつかるおまじない！ おまじない大事典
<https://omajinai.tteine.com/other/sagasimono.html>
- ⑫ 失くしたものが出てくるおまじない
<https://matome.naver.jp/odai/2134827358485590101>
- ⑬ 成功率8割！ 探し物がすぐみつかる奇跡の方法「たぬきがこけた」
<https://billion-log.com/tanukigakoketa/>
- ⑭ なくしたものがみつかるおまじないまとめ！ [効果抜群]
<https://lovely-media.jp/posts/5208>
- ⑮ なくしたものがみつかる！ 大事な探し物のおまじない4選！ 占いのウラッテ
<https://uratte.jp/posts/nakusimono-omajinai-mitukaru>
- ⑯ 困った時の神頼み？ 探し物が見つかるおまじないとは！ 探偵トーク
<https://tanteitalk.com/pet/omajinai/>
- ⑰ なくなったものが出てくるおまじない：生活・身近な話題：発言小町：読売新聞
<https://komachi.yomiuri.co.jp/t/2010/0717/331962.htm>
- ⑱ 失くした物が絶対見つかるおまじないって・その他（占い・超常現象）
<https://okwave.jp/qa/q360048.html>

- ⑲ 失せもの探しのおまじない。探し物の聖人アントニオ。
<https://yarinokoshi.blog.so-net.ne.jp/2011-04-08>
- ⑳ 探し物（鍵など）を見つける効果的な方法：10のステップで着実に探す
<https://minimalist-fudeko.com/how-to-find-lost-objects/>
- カテゴリーC. 探し物を見つける方法 占い ㉑～㉓
- ㉑ [探し物が絶対見つかる方法] 簡単!! 家の中でなくした物を見つける
<https://minnano-chiebukuro.com/how-to-find-item>
- ㉒ 無くした探し物を見つける最強のおまじない15選! 絶対にこの方法で見つかる?
<https://cuty.jp/46077>
- ㉓ この言葉を唱えるだけで... なくした物が見つかるおまじない
<https://ranranblog.net/2016/07/17/%e3%...>
- ㉔ [完全版] なくした物を見つける方法 / 占いやアプリ・家の中で探す方法
<https://www.men-joy.jp/archives/364634>
- ㉕ タロットカードの占いで探し物の占いを教えてください!! 大至急で...
<https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question-detail/q1042000705>
- ㉖ [探し物の夢占い] 意味15選! なくしたものを探す・見つかる / 靴 / 服
<https://cuty.jp/40043>
- ㉗ 探し物がみつからない! 家の中のなくしたものを絶対に見つける方法やコツ
<https://kirari-media.net/posts/5784>
- ㉘ 夢占い探す夢! 探し物が見つかる見つからない等13通り / 夢占いの部屋
<https://yumenouranai.com/archives/228.html>
- ㉙ 探し物の夢占いの意味と心理 / 靴 / 車 / 服 / 見つける / 鞆
<https://uranaru.jp/topic/1004313>
- ㉚ なくしたものが確実に探索法10選! チェックの方法やおまじないも!
<https://akanbo-media.jp/posts/11895>

(付記) なお、『新版・心理学辞典』をはじめ『故事 ことわざの辞典』『広辞苑』『精選版 日本国語大辞典』『日本語大辞典』『明鏡国語辞典』なども参照した。

—2019.11.18 受稿—